



熊本再春医療センター医療連携室だより



再春

令和2年 第2号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春医療センター
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



当院入院中のI様から最新作のCGを戴きました。I様、いつも有難うございます。今年是世界中がこの鯛や牛のように、優しい笑顔でいられる“丑年”になりますように期待しています。願いの文字もマウスを使って丁寧に描いています。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 外来治療棟等更新築整備工事完成 3
3. 病棟・部門紹介【5階病棟】 4
4. 開放型病院登録医紹介【東熊本第二病院】 4
5. 病棟・部門紹介【療育指導室】 5
6. 開放型病院登録医紹介【矢野医院】 5
7. 診療科紹介【整形外科】 6~7
8. 新任スタッフ紹介 7
9. 当院における新型コロナウイルス感染症の対策について 8



新年のご挨拶

病院長 上山 秀嗣

新年あけましておめでとうございます。平素より皆様方には医療連携を始めとして多大なご協力、ご支援を頂きまして厚く御礼申し上げます。

当院は昨年10月に新病院の建替え工事が全て終了し、11月にグランドオープン致しました。

新病院の建替え工事は、平成27年6月の設計開始から5年、平成28年10月の工事開始から4年を経て完了しました。設計は内藤建築事務所、建築は戸田建設・溝江建設共同企業体、電気関連は株式会社きんでん、機械関連は九電工・空研特定共同企業体に担当して頂きました。この間、大きなトラブルや事故もなく業務を遂行して頂き、歴代職員および関連業者の皆様には深く感謝申し上げます。

前回の広報誌でも述べましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が全国で再び加速しています。政府によるGoToトラベルキャンペーンの影響も大きいと思いますが、熊本県においても日々の感染者がゼロになることは有りません。医療機関におかれましては、入院患者や職員が新型コロナウイルスに感染しないように多大な努力を払われているものとお察し申し上げます。

ちなみに当院の新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策としましては、以下のような項目を行っています。

- ① 職員は毎朝体温測定、体調チェックを行い、各自用紙に記録
- ② 病院玄関にサーマルカメラを2台設置し、来院者全員の体温チェック

- ③ 来院者には手指消毒、マスク着用の徹底
- ④ 体温37.5度以上の有熱者は救急外来の感染症室に誘導・隔離し、必要に応じて検査
- ⑤ 外来受付、窓口、診察室等にアクリル板を設置し、待合椅子の間隔を開ける
- ⑥ 外来受付、診察室、待合椅子、アクリル板、トイレなどの定期的な消毒
- ⑦ 入院患者の面会は原則禁止（令和2年7月末～）とし、リモート面会を推奨
- ⑧ 外部業者の立入り原則禁止
- ⑨ ボランティア、学生実習の受入れ中止

日本政府も感染防止と経済回復の両立に苦慮していて、最近では対策の手詰まり感がありますが、有効かつ安全なワクチンが1日も早く開発されることを祈念しています。

昨年4月より再開されました当院の循環器内科診療ですが、心臓カテーテル検査・治療の実施件数も着実に伸びていますので、必要な場合には当院にご紹介頂ければ幸いに存じます。

今後も当院は熊本県地域医療支援病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、熊本県難病診療分野別拠点病院、そして熊本県地域医療連携ネットワーク拠点病院として、責任ある地域医療への貢献に努めてまいりますので、皆様方には今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

外来治療棟等更新築整備工事完成

企画課長 橋本 和明

令和2年2月にⅢ期工事の前半部分となる管理棟改修工事が完了後、令和2年3月より令和2年10月までの8ヶ月間、Ⅲ期工事の後半部分となる外構工事が行われ、途中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で工事が一時中断になるなどの影響があったものの、無事工期どおりに全ての工事が完了しました。

今回の外構工事の内容は、旧外来治療棟などの建物を解体し、整地後に駐車場と新本館棟の西側に玄関前のロータリーを整備するものでした。

管理棟、外来棟、手術棟、放射線棟、多目的ホールなどの旧建物を解体し、整地した場所には外来者用駐車場約300台分と職員用駐車場約100台分を整備しました。また、新本館棟の西側に正面玄関前ロータリーを整備しています。

さらに、つくし病棟の南側にあった在宅支援棟も解体し職員駐車場を整備しています。

当初の計画では、倉庫として利用していた在宅支援棟は解体せず、旧南病棟、生活支援棟、作業療法棟を解体する予定でしたが、雨水による漏水があり、老朽化も著しいことから在宅支援棟を解体し旧南病棟、生活支援棟、作業療法棟を残すよう計画を変更しました。

平成28年10月に工事を着工し、令和2年10

月完成まで4年1ヶ月かかりましたが、全ての工事が完了し、令和2年11月2日から本格稼働となっています。

工事期間中は、ご不便、ご迷惑をおかけいたしました。ご来院の皆様、関係者の皆様のご理解、ご協力により、全ての工事を無事に完了することができ、深く御礼申し上げます。

令和元年7月に行われた本館棟完成時の内覧会では、本館棟の周りに建物が残っている状態でしたが、現在は本館棟西側に広大な駐車場が広がり、駐車場の奥には旧東西病棟を改修し化粧直した新しい管理棟が建っており、以前にも増して8階建ての本館棟が際だった印象を受けることと思います。

お近くにお越しの際は、完成した新しい熊本再春医療センターを是非ご覧いただきたいと思っております。

本館棟正面入口



全景



病棟・部門紹介 No.9

5階病棟のご紹介

5階病棟看護師長
西山 幸子

5階病棟は、外科および整形外科の混合病棟で、人工関節センターとして手術前から手術後までの急性期・回復期看護、癌のターミナルケア、手術以外では内視鏡的治療など様々な看護を行っています。外科手術は、主に鏡視下による手術が多数を占めており、消化器外科（胆のう摘出術・結腸切除術・ヘルニア根治術・胃切除術）、および呼吸器外科（肺切除術・プラ切除など）が行われています。整形外科手術は、四肢の骨折による観血的手術や股・膝・肩関節の人工関節置換術・骨切り術、肩の腱板断裂に対する腱板修復術などが行われています。令和元年度の手術件数は、合計694件（外科243件、整形外科451件）でした。私たちは、患者さんが安心して手術に臨むことができ、手術後はできる限り元の生活に復帰し、その人らしい人生が継続できるよう、質の高い周術期看護の提供を目指しています。

また、高齢化社会が進むなか、高齢での手術も多くなり、心疾患・糖尿病などの複数の疾患を抱えて手術を受けられる方も多く、術後のケアがとても大切であり、高齢患者さんの心身の機能低下による合併症の予防がとても重要です。

5階病棟では、多職種（理学・作業療法士、薬剤師、栄養士など）や認定看護師（WOC、摂食嚥下、認知症、緩和ケア）と連携し、入院時より患者さんの状況や個別性に応じた支援を実践しています。退院に向けて、入院時より患者・家族の希望や意向を汲み取りながら、退院支援・指導を行っています。地域連携室とも協力しながら各施設や転院先、地域のケアマネージャーと連携をはかり、自宅環境を整え、必要なサービスを受けることができるよう調整を行い、安心して退院を迎えることができるよう支援しています。また、当院には地域包括ケア病棟があり、整形外科の手術後のリハビリを継続することができます。これからも、1人でも多くの患者さんに「当院で手術をしてよかった」と感じてもらえる支援の提供を目指していきます。

最後に、コロナ禍によって医療を取り巻く環境が非常に厳しくなり、患者・家族にとっても入院生活の状況が一変してしまいました。面会もできない現状において、私たちは患者さん一人一人が、安心して治療を受けて頂けるよう思いやりを持ってケアを行っていきたいと思います。



開放型病院登録医紹介

東熊本第二病院

院長／馬場 太果志

菊池郡菊陽町大字辛川1923-1

TEL 096-232-3939 FAX 096-232-3938

診療内容／内科、外科、消化器内科、循環器内科、放射線科、皮膚科、整形外科、呼吸器内科、リハビリテーション科

診療時間／ 9:00～12:00
13:30～17:00

診察日	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～12時00分	○	○	○	○	○	○	×
13時30分～17時00分	○	○	○	○	○	×	×

東熊本第二病院 馬場院長先生には、平成23年7月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまをご紹介いただいております。

平成14年に開院され、現在では一般病床10床、地域包括ケア病床50床、医療型療養病床51床の計111床体制で診療をされています。今後は、検査、画像診断などの体制を強化し、救急医療や在宅医療、看取りなどの地域のニーズに答えられるように取り組んでいかれるとのことです。



病棟・部門紹介 No.10

療育指導室のご紹介

療育指導室長
植村 安浩

療育指導室は一般の病院にはない部署で、スタッフの構成は定員で児童指導員5名と保育士8名からなり、入院している障害を持つ児童を主に支援する職種です。児童指導員は、その名の通り児童が生活を送るための指導をする、だけでなく、生活環境の調整、発達の支援、保護者からの相談対応、児童相談所との連携を行います。保育士は、乳幼児を適切な環境で安全かつ健康に過ごせるよう養護し、心身の発達を促すことを行います。当院には、小児病棟や心身に重度の障害を持つ児・者の入院する重症心身障害病棟、神経や筋肉に疾患を持つ児・者の入院している神経・筋疾患病棟があります。それらの病棟での医療、看護、介護等を提供するスタッフに加えて配置されています。最初に、児童を主に支援すると記しましたが、障害者総合支援法（正式には「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」といいます）にて入院されている障害者に対しても、日中活動（趣味活動）の支援、福祉サービスに関する相談・助言、個別支援計画（福祉サービス利用における計画）運用のマネジメント等行っています。加えて、病院で活動していただいているボランティアさんの窓口を担当しています。

日中活動の支援においては、ほとんどの方が長期の療養を送られているので、療養生活をより豊かにするための催しものや趣味活動などを計画、実施しています。季節の行事では、お正月、節分、ひなまつり、お花見、端午の節句、七夕、夏祭り、お月見、運動会、ハロウィン、クリスマスなどです。病棟の飾り付けもそれらに合わせて行い、より雰囲気味わっていただいています。患者さん方の自治会と相談しながら企画し開催することもあります。ライフサイクルでは、誕生日、入学、卒業、成人、還暦のお祝いごとです。最近は10才になったときの二分の一成人式も行っています。趣味活動では、グループでの音楽やスポーツ、制作など、個別には、その方の希望に沿って絵や俳句、麻雀などを行うこともあり、近隣の公園やショッピングモールなどへの外出行事も行います。これらの行事や趣味活動では、皆さんに楽しんでいただく為にボランティアさん方の支援をいただいているものもあり、外出だけでなく、社会と関わっていただく機会にもなっています。

今年度はコロナ禍の影響でご家族の面会禁止、ボランティアさんの受入中止などにより、患者さんやご家族が楽しみにしていた院内・院外の行事が規模の縮小、中止を余儀なくされてしまいました。そのような中でも患者さんと共に楽しく、密にならないように、工夫して行事を行っております。これからも患者さん方が笑顔で過ごすことができるように、関わる職員、ご家族、ボランティアさん方と支援していきます。



開放型病院登録医紹介

矢野 医院

院長／矢野 克比古

菊池郡菊陽町原水1611

TEL 096-232-5266 FAX 096-232-5215

診療内容／内科、外科

診療時間／ 8:30～11:40

13:30～17:40

診察日	月	火	水	木	金	土	日
8時30分～11時40分	○	○	○	○	○	○	×
13時30分～17時40分	○	○	○	×	○	×	×

矢野医院 矢野院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまを紹介いただいております。

菊陽町原水に開業され、内科系・外科系を中心に診療をされております。長年にわたり地域の皆様に愛される診療所として、患者さまに寄り添った診療の提供に努められております。



【スタッフ紹介】

副院長 緒方 宏臣	日本整形外科学会専門医、運動器リハビリテーション医、スポーツ医、リウマチ医、日本リハビリテーション学会認定臨床医、医学博士
医 長 山下 武士	日本整形外科学会専門医、運動器リハビリテーション医、リウマチ医、日本リウマチ学会専門医、リバーstype人工肩関節置換術執刀認定医、医学博士
医 長 堀川 朝広	日本整形外科学会専門医、スポーツ医、リウマチ医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター、日本リウマチ学会専門医、日本骨粗鬆症学会認定医、医学博士
医 師 今村 悠哉	日本整形外科学会専門医、スポーツ医、医学博士
医 師 福田 雅俊	日本整形外科学会専門医、医学博士
専修医 唐田宗一郎	
	専修医 関 昭秀

平成 31 年度春、米村憲輔前院長の勇退後、緒方宏臣部長が副院長へ昇任しました。

令和 2 年春に堀川朝広医長、唐田宗一郎専修医、関 昭秀専修医が加入しました。

当科は、整形外科医 7 名中 5 名が整形外科専門医です。専修医 2 名は 1 年毎に研修病院をローテートし、専門医資格取得に向け、日々研鑽を積んでいます。

【人工関節センター開設】

令和元年 9 月 3 日、新本館棟における診療開始と同時に、人工関節センターを開設しました。

当科で主に施行している人工関節は、

1. 人工膝関節置換術
(TKA, Total Knee Arthroplasty)
2. 人工股関節置換術
(THA, Total Hip Arthroplasty)
3. リバーstype人工肩関節置換術
(RSA, Reverse Shoulder Arthroplasty)

の 3 本柱です。

第 1 の柱：TKA は、膝関節専門医である緒方副院長を中心に施行しています。

関節軟骨が消失した末期変形性膝関節症に対して施行し、痛みで歩けなかった高齢の患者さんが、畑仕事ができるまで



左より今村医師、福田医師、緒方副院長、山下医長、関専修医、唐田専修医、堀川医長、新本館棟前にて

に回復しています。

第2の柱：THAは緒方副院長指導の下、専門医全員が執刀しています。

THAも、日常生活が困難な末期変形性股関節症に対して施行し、好評を得ています。

第3の柱：RSAは、RSA執刀認定医である山下医長が施行しています。

RSAは2014年に日本での施行が開始された、新しい人工関節です。

肩関節は特殊な関節であり、腱板が断裂していると、人工関節に置換しても自由に動かすことができません。

そこで開発されたのが、RSAです。何がリパースなのかというと、骨頭と、受け手側の関節窩が逆の位置に設置されるのです。すると、腱板が断裂していても、残存した三角筋だけの力で肩挙上が可能となる、肩関節外科医にとって、夢のような人工関節なのです。

しかしながら、元の解剖とは全く違う人工関節であるため

に、適応や手術手技に注意を要します。そこで、肩関節手術100例の経験を有するRSA執刀認定医のみに執刀が許可されています。現在、熊本県下でRSAが施行可能なのは、当院と、他2施設のみです。

RSA後の患者さんは術後の笑顔が非常に印象的です。術前は痛みで眠れない日々を過ごしており、術後の痛みがなく手が挙げられる生活は、とても快適であるとの感想を頂いています。



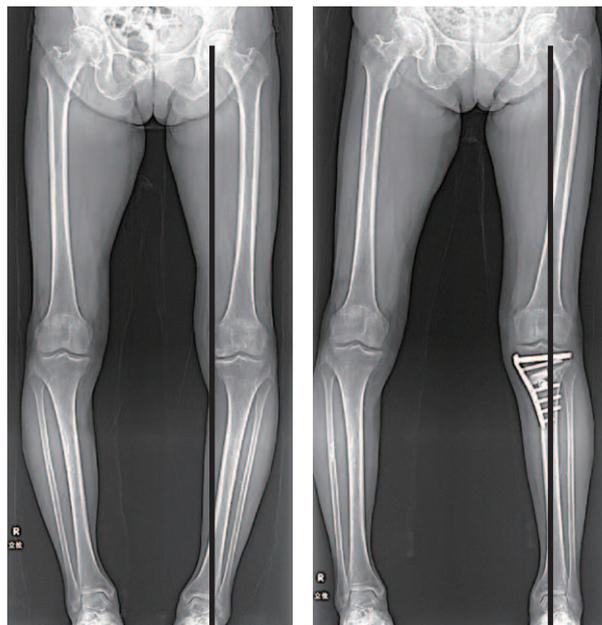
上図、RSA (Zimmer-Biomet社)：関節窩に人工骨頭、上腕骨に人工関節窩が置換されており、本来の人体解剖とは逆になっています。

【新しい柱、HTO】

令和2年4月に赴任した堀川医長は、熊本県でトップクラスのHTO(高位脛骨骨切り術、High Tibial Osteotomy)専門医です。他にTKA、ACL再建術、膝関節鏡手術も得意としています。

HTOは比較的若年で初期から進行期の変形性膝関節症に対して施行します。基本的に、脛骨を骨切りして、角度を変えて固定する手術です。必要な際には、大腿骨側も骨切りして、接地時の荷重軸を調節します。術前の綿密な計画と、術中の正確な手術手技を要します。

堀川医長は、熊本県全域から紹介患者を受けており、数多くの患者さんの満足を得ています。



凹脚変形が改善され、膝の内側を通っていた荷重線が、膝中央のやや外側を通っています。

【終わりに】

膝、股、肩関節の痛みでお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。その他、肘、手、足関節、手指、足部の痛みにも、きめ細かく対応させていただきます。

採用・異動職員からのごあいさつ

■ 医師

小児科医師
藤山 菜摘

10月より赴任いたしました小児科の藤山菜摘と申します。熊本県出身で、熊本大学を卒業しました。現在医師4年目です。熊本大学小児科に入局後は、熊本赤十字病院や熊本市市民病院、福田病院に勤務してきました。

趣味はフルートで、熊本市市民吹奏楽団という吹奏楽団に所属

しております。今年は新型コロナウイルスの影響で日常の練習もできず、毎年楽しみにしている定期演奏会やコンクールが中止となり、とても残念です。

当院では一般小児はもちろん、小児神経や重心医療、在宅医療などの専門的な分野にも携わらせていただくことができます。まだ研修中の身で初めてのことも多いですが、先生方には丁寧に指導していただき、スタッフの方々は皆様温かく接してくださり、ありがたく感じております。

大好きな熊本の医療に少しでも力になれるよう頑張りたいと思っております。ご迷惑も多々おかけすると思いますが、どうぞよろしくお願致します。

当院における新型コロナウイルス感染症の対策について

院内感染防止対策委員会

当院では、皆様に安全で安心してご来院いただけるよう、様々な感染対策を行っています。

しばらくの間、ご不便をお掛けしますが、ご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

【正面玄関での健康チェック】

- ☑ 正面玄関で、来院者に対して非接触型の体温計で発熱の有無をチェックしております。**発熱の他、「咳」「息苦しさ」「風邪の症状」「のどの痛み」「味や臭いを感じない」等の症状がある方は**、お近くの職員へお申し出ください。



入館時の体温測定



上記の症状がある場合

- ・面会や付き添いはご遠慮願います。
- ・受診希望で来院された方は、他の方と別の経路で待機していただきます。係員が案内いたしますので、指示に従っていただくようお願いします。

【マスク着用のお願】

- ☑ 院内では、症状の有無に関わらず、マスク（不織布、布、ガーゼ等のような素材でも構いません）を着用していただきますようお願いします。
- ☑ マスクを着用していない方は、病院内への立ち入りをお断りしています。
※やむを得ない事情でマスクの着用が困難な場合は職員へお申し出ください。
- ☑ 入院患者さんについても、マスクを着用していただくようお願いいたします。なお、マスクに関しては、各自でご用意いただくようお願いいたします。

【手指衛生のお願】

- ☑ 来院の際はアルコール製剤による手指消毒をお願いします。

- ☑ トイレに行かれた後は、石鹸と流水での手洗いをお願いします。

【3密回避への取り組み】

- ☑ 待合の椅子には、間隔を空けて座っていただくようお願いします。
- ☑ 飛沫感染防止のため、各受付や診察室にアクリル板を設置しています。



【面会について】

- ☑ 入院患者さんへの面会は、医療上および看護上やむを得ない場合を除き、当面の間、**原則禁止**とさせていただきます。解除や緩和につきましては、随時、お知らせいたします。
- ☑ 洗濯物など荷物の受け渡しは看護師が仲介しますので、病棟入口のインターホンでお呼びください。

病棟入口



インターホン



【職員の体調管理】

- ☑ 院内の感染管理室主導のもと、手指衛生（こまめな手洗いや消毒剤の利用）および咳エチケットなどを徹底し、感染予防に万全を尽くしております。
- ☑ 職員は、毎日、勤務前に体温測定と、発熱または風邪の症状などの有無について、健康チェックを行っています。体調不良のまま勤務することのないよう指導しております。
- ☑ 職員の休憩室にはアクリル板を設置し、30分ごとに換気を行うよう指導しております。